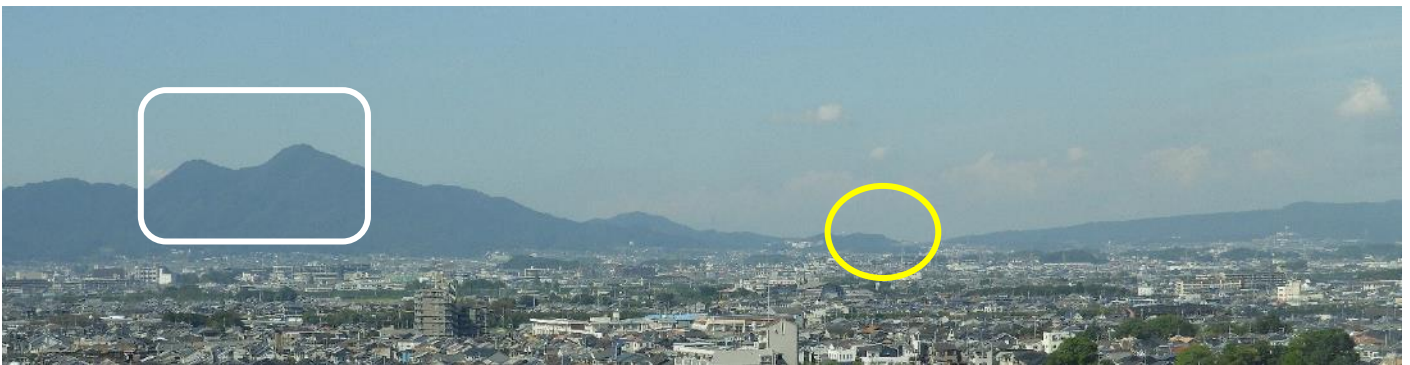


2021年10月24日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ さんぽかい 「燦歩会」例会(第507回)

世界遺産5つを一望 明神山(みょうじんやま)に登る(奈良)

ほぼ1年ぶりの燦歩会です。昨年11月に京都トレイルを歩いて以来です。参加は15名。その多さにも皆さんの待ちわびていた気持ちが窺えます。皆さんの微笑みにも、コロナ禍を潜り抜けて来た安堵感と、久しぶりに歩ける喜びが感じられました。しかし油断してはなりません。JR王寺駅からバスで16分、明神山の登り口に集合した所で、検温と健康状態のチェック、手指の消毒、そして柔軟体操。物足りないかも知れませんが、おしゃべりも控えめに、間隔を開けながら登りにかかります。

明神山から見える5つの世界遺産とは、①古都奈良の文化財、②法隆寺地域の仏教建造物、③古都京都の文化財、④紀伊山地の霊場と参詣道、⑤百舌鳥・古市古墳群、の5つです。標高わずか273.6mの明神山の頂上で、そんなに良く見えるのでしょうか?



奈良と大阪の境をなす山並みは、北から生駒山、信貴山(しぎさん)と続き、一旦大和川の流れて途切れ、再び立ち上がって明神山(黄円)、二上山(白樫)、葛城山、金剛山と続きます。今回の目的地 明神山はその山並みの切れ目、大和川のすぐ南にあります。



住宅街の中、朱の鳥居をくぐってなだらかな坂を登ります。急な冷え込みもあって、この所一気に秋が深まった感があります。ツブキも鮮やかに咲いていました。どんぐりも実を太らせ、足元にも落ち始めていました。



山道に入ったとたん、こんな看板が出ていて驚かされました。金剛山、葛城山に連なる明神山ですから、イノシシにとっては往来自由の領地なのでしょう。



元々は頂上まで舗装されたハイキングコースなのですが、今年は道路の補修工事が行われている為、途中から迂回路に入ります。燦歩会にとっては、この方が嬉しい久々の山道です。

林の中をアップダウンを繰り返しながら進みます。あるいはこの道が古くからの参詣道だったのでしょか？

10分程で、元のハイキングコースに戻り、頂上を目指します。



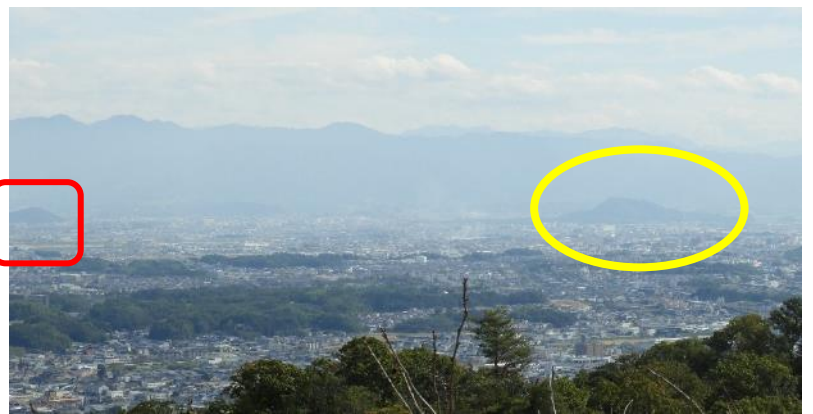
北の方向に眺望が開けて、「亀の瀬」を見る事が出来ました。写真右端の突出が信貴山で、そこから大和川までの急斜面が、古くからの地滑り地帯なのです。亀の瀬の地下では、水を通しにくい粘土層と通しやすい火山灰土層が重なり、そこに水が溜まって地滑りが起きる訳です。幅1 km、長さ1 km、深さ70mの土

砂がじわじわと斜面を滑る。大和川を埋めて洪水を引き起こしたこともさへあります。この下をトンネルで通っていた国鉄関西線も、対岸に付け替えられました。現在では、水を抜くための井戸やトンネルを多数掘って排水し、また300本を超える鋼管の杭を打ち込んで、地滑りは落ち着きを見せているようです。



さて、頂上到着です。標高は僅か273.6mですが、小さな独立峰といった感じで、周りが良く見えるのです。

先ず水神社（すいじんじゃ）にお参りします。歴史は古いのですが、祠は新しくなっています。昼食をしながら360度の眺望を楽しみます。数日晴れ続きだったため、視程はあまりクリアーではありませんが。



南方向は間近に二上山、その奥に葛城山、金剛山が望めます。二上山をこの角度から見るのは初めてで、意外な大きさに驚かされます。

東の方向は大和盆地で、大和三山も耳成山（赤口）、畝傍山（黄○）はしっかり見えます。天の香久山は中間にある筈ですが、確認できませんでした。



北東方向の奈良の市街には東大寺大仏殿、興福寺五重塔が見られました。
北の方、比叡山方向は残念ながら霞んで見えませんでした。
西北、大阪側に目を転じると、あべのハルカスが良く見えました。



西の方向、家並みの中に島のように浮かんで見えるのが、世界遺産に指定された古墳群です。
手前が古市古墳群で、百舌鳥古墳群は奥の方です。



一瞬だけマスクを外して
大和盆地をバックに全員
写真です。 撮影者は
はいれなかったので、
枠外に加えました。



眺めを楽しんだ後は、歴史を辿ります。
山を下りて、住宅街に接した林の中に小さな古墳を尋ねます。



畠田古墳（はたけだこふん）は、古墳時代の終末期7世紀初めごろの築造と考えられています。直径15mの円墳で、調査の結果、内部には木棺が据えられ、少なくとも2体が埋葬されたとみられ、また、副葬品として金環や金銅製の刀の飾りなどが見つかっています。この地の有力者のお墓だったのでしょ



いまは石室の中に入ってみる事が出来ます。恐る恐る入ります。



明神山の斜面を降りきった所には、北流して大和川に合流する葛下川（かつげがわ）が流れています。また国道とJR線も並行して走る交通の要所です。



その傍ら香芝市（かしはし）の尼寺廃寺（にんじはいじ）の発掘調査で、大きな発見があったのは1996（平成8）年のことでした。なんと直径が4m近くもある大きな礎石が見つかったのです。塔の中心の柱の台石で、日本史上最大級のもので、今では塔跡の上にレプリカの台石が配置され、また近くに建てられた資料館の展示で、その巨大さを体感できます。



写真は発掘当時の礎石の様子です。私はその時の現地説明会で、深い穴の底に横たわる巨大な石の塊をまじまじと見ましたが、その時の驚きは、今も心に残っています。特にその礎石にクローバーを思わせる柱穴が掘られている事、巨石が真っ二つに割れている事に、謎めいたものを感じたものでした。芯柱の四方に補助の添え柱を立てるため、このような形に彫られていたのです。芯柱の直径は76cmもあります。

調査の結果、法隆寺の五重塔に匹敵するほどの大きな塔が建っていたと考えられています。当然生まれる疑問は、それ程の大きなお寺を誰が建てたのかです。余程財力のある人でしょう。詳しくは補足に譲りますが、聖徳太子の上宮王家（じょうぐうおうけ）の人々、あるいは敏達天皇（びだつてんのう）の王家の人々だろうと、考えられています。



午後3時を回り風も冷たさを増して来ました。

最後に訪ねたのは片岡山 達磨寺 (かたおかさん だるまじ) です。舗道の犬の足跡が道案内をしています。実は王寺町のシンボルマスコット「雪丸」の足跡なのです。雪丸は聖徳太子の愛犬で、人の言葉を話し、お経を読むことが出来たそうです。

日本書紀の推古天皇21年12月1日の条によれば、聖徳太子がこの片岡の辺りに来た時、路傍に飢えた人が倒れていました。太子は食物と自身の衣服を与えますが、翌日には飢人は亡くなっていて、太子は飢人をその場所に埋葬し、塚を築きます。数日後、太子は「あの飢人はきっと聖者であろう」と使いをやって確かめさせます。使いが墓を開けてみると遺骸は無く、ただ棺の上に太子の与えた衣服がたんで置いてあったというのです。太子はその衣服をまた着用します。時の人々は「聖(ひじり)は聖を知るといふが本当なんだなあ」と感動したというのです。

日本書紀の記すのはここまでです。片岡山飢人伝説と呼ばれるものです。それがいつしか飢人は達磨大師であるとされ、ここに達磨寺が創建されるのです。太子には雪丸が付き従っていたに違いありません。雪丸は臨終の時、あの達磨塚の丑寅(北東)に葬って欲しいと言いつつ残したそうです。いま達磨寺境内には、雪丸の墓が現に残されています。



本堂でボランティアガイドさんの解説を聞きました。ご本尊聖徳太子像と達磨大師像とは、共に国の重要文化財です。聖徳太子像は大阪市美術館の特別展に出張中でした。解説によれば、本堂は古墳の上に建てられているのだそうです。それで、下の石積みがこれ程に高いのですね。



雪丸のお墓も訪ねます。横穴式石室をもつ直径約15mの円墳です。この古墳が遺言にもとづいて葬られた雪丸の墓であるとされていますが、また聖徳太子が法隆寺へ密かに通うための地下道の入り口だとも伝えられているのです。正式名称は「達磨寺1号墳」です。因みに本堂の下にあるのは「達磨寺3号墳」です。

午後4時前に達磨寺で解散しました。久しぶりに会えた事、お互いに無事で何よりだった事、警戒しつつもコロナを恐れずに野外を歩けた喜び、様々な思いを胸に、来月もまた支障なく会える事を願いつつ、家路に着きました。

JR王寺駅でも、雪丸が見送ってくれました。

帰宅した時点で、私の歩数計は20,113歩でした。



いつもながらの蛇足と補足です。

日本一住みやすい町 王寺

王寺町は昨年11月、「街の住みごごちランキング2020」で、なんと日本一になりました。賃貸住宅大手が、全国の20歳以上の男女35万人に対してインターネットでアンケート調査したものです。ちなみに2位は東京都中央区、3位は大阪市天王寺区でした。人口2万3千人ほどの小さな町が、どうして1位に選ばれたのか？理由は、大阪中心部へのアクセスのよい事、コンパクトな町で商業施設が充実し、町の子育て支援策が整備されていることなどのようです。王寺町ではマンションが相次いで建設されており、賃貸マンションはすぐに埋まるなど盛況という事です。なお、王寺町はその前年は12位、今年度の調査でも17位と健闘しているそうです。

明神山は「日本遺産」 葛城28宿のこと

明神山地域が昨年度、文化庁の「日本遺産（Japan Heritage）」に認定されました。

『「葛城修験」～里人とともに守り伝える修験道のはじまりの地～』に和歌山、大阪と一緒に申請して認められたものです。

葛城の峰々は、修験道の開祖役行者が修行を積んだ地で、吉野・大峯と並ぶ「修験の二大聖地」と呼ばれています。「葛城28宿」というのは、役行者が葛城の28の峰に経塚を作り、法華経を納めたもので、その峰々は聖地・修業の場として尊ばれて来たのです。

その28の最初は和歌山県友ヶ島です。2016年9月の燦歩会で紀伊水道の友ヶ島を訪れた時、写真の虎島に「序品窟（じょほんくつ）」という洞窟があり修験道の聖地だという事を知りました。「序品」とは法華経の序章という意味だそうです。



そして28宿の最後は明神山山頂の水神社もしくは亀岩とされているのです。亀岩というのは亀の瀬の事でしょう。

役行者がここに納めたのは、法華経の最後「普賢菩薩勸発品（ふげんぼさつかんぼつほん）」。普賢菩薩がお釈迦様の説法を聞いて感動、大いに発奮する場面だそうです。

この明神山周辺も28宿のゴールとして、大勢の修験の行者が通って修業を重ねたのでしょう。

尼寺（にんじ）を建てたのは誰だろうか？

① 聖徳太子の王家

1996年に尼寺廃寺で巨大な礎石が発掘された時、聖徳太子の王家が建てたものだろうという説がクローズアップされました。法隆寺の後世の記録で、聖徳太子は7つの大寺を建てたとされています。法隆寺、中宮寺、法起寺、橘寺、大阪の四天王寺、京都太秦の広隆寺、そして葛城尼寺。先の6つは場所が確認されていましたが、葛城尼寺だけはわかっていなかったのです。そこでこれこそ葛城尼寺に違いない！聖徳太子の王家が建てたものだろうという事になったのです。規模と云い、壮麗さと云い、ふさわしいものではあるでしょう。また礎石の柱穴の形が法隆寺の若草伽藍と同じという事も、根拠とされました。時代により変遷する塔と金堂の並び方も法隆寺と同じです。ただこの寺の創建年代は650年～660年と推定されています。一方聖徳太子は622年に亡くなり、太子の上宮王家は643年に滅亡します。ですから、直接手掛けることはあり得ず、ゆかりの人が太子、王家を偲んでこの寺を建てた事は考えられる訳です。

② 敏達天皇（びだつてんのう 30代 在位572～585）の王家

この辺り「片岡」の地は、7世紀になるとかつての葛城氏の勢力は衰え、敏達天皇の王家が進出して来ます。そして天皇の子孫の墓がこの近辺に営まれています。いずれも大きさや仕上げの見事さで知られ、力の大きさが偲ばれるものです。その家系は続いて繁栄しますから、このような大寺を営む事は可能だったろうという事です。

巨大な礎石は、なぜ割れたのか？

これにも二つの考え方があります。

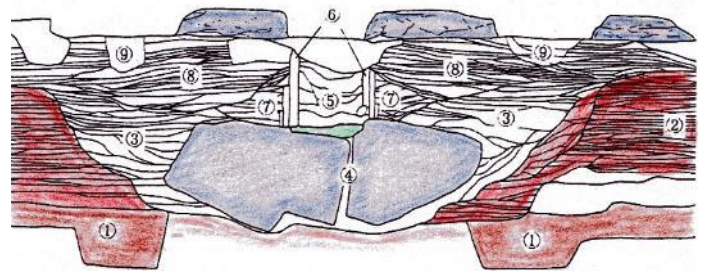
礎石の上面には、割れた部分の段差を補うように、小石などが敷き詰められていたそうですから、後世に割れた訳ではなく、いずれにせよ建設途上のもののようです。

① 工事のミスで割れた。

この図は塔の根元の地層の断面図です。

中央にある④が礎石で、二つに割れています。

巨石をスロープで引っ張り上げ、お椀型の穴の底に据える時に、ゴロンと行って、割れてしまったのでしょうか？



② 二つの石を合わせた。

割れ目が滑らかな事。この基壇の南北に、巨石を運び上げるスロープの跡が二つある事。

などから、元々別の石を運び入れてドッキングさせたという考えです。

とすれば、まことに見事な石工の技ですね。

* * * *

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。メンバーは現在41名です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、毎月第4日曜日に歩いています。

今後の予定

- 11月 日本民家集落博物館で昔の暮らしを追体験! (大阪)
- 12月 飲食を伴う納会は取止め です
- 1月 第1回例会の北・山の辺の道(白毫寺)を再訪する (奈良)
- 2月 燦歩会500回記念行事 浪花文学散歩と懇親会 (大阪)
- 3月 おこしやす京の五花街を巡る 続編 (京都)

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。

(電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp)

と一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

(写真・文 生島 幸弥)